



第363号 「がんばろう、日本！」 国民協議会 機関紙

発行所 「がんばろう、日本！」 国民協議会 発行人 戸田政康 編集人 石津美知子 http://www.ganbarou-nippon.ne.jp

1部 300円 定期購読 半年2,000円 一年3,500円

今号の紙面 3-2面 書評 一灯照隅(地方議員のコラム) インタビュー 政権選択選挙 4面 北川正恭・マニフェスト研究所長 水野賢一・衆院議員 5面 枝野幸男・オープン・ミーティング 6面 定例講演会「都議選の総括」 7-8面 インタビュー「日本の戦略」 9-12面 伊藤大輔・慶応大学教授 13-14面 添谷芳秀

まかせせる政治から、参加する政治へ

「お任せ」政治「政権たらい回し時代」の常識は

「政権選択・政権交代時代」の非常識

いよいよ歴史的な総選挙を迎える。「歴史的な」という意味は、明治以来の憲政史上はじめての本格的な政権選択選挙であるところにある。有権者の一票で政権のあり方が決まる。これがいよいよ現実のものとなるのだ。それを表現するのは、ほかでもない私たちが有権者である。政権選択・政権交代なき時代、「政権たらい回し」時代の習慣に替わる新しい政治文化は、至るところに芽生え始めている。それらが「臨界質量」を超えて、社会全体の政治文化を変える、その転換点としていよいよではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

政権選択選挙の論戦は「政権の実績評価」から出発する という常識

「政権の実績評価」から出発する という常識

政権選択選挙では、マニフェスト(政権公約)が重要であることは言うまでもない。しかしそれは「A政党のマニフェスト」とB政党のマニフェスト、どちらがいいかということではない。マニフェストが旧来の「公約」と決定的に違うのは、政権を取ったらず実行する「国民との約束」である、という点だ。選挙での国民との約束を政権交代でどこまで実行したのか、それを問うところがマニフェストの真骨頂にほかならない。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

小選挙区制の導入を柱とする政治改革は、こうした時代を終わりにして、二大政党による政権交代のある民主政を目指すものであったが、政権交代が身内の事情で表紙を替えるという「政権たらい回し」はその後も続き、

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

「政権選択・政権交代時代」にふさわしい政治文化、選挙文化を本格的に「有権者の常識」として定着させる一歩である。「政権たらい回し時代」の常識は、「政権選択・政権交代時代」の非常識だということに、あらゆるところで気づくべきではないか。

でも政権選択選挙の時の一票の行使は、マニフェストと政権選択と政権が明確に一致するものとなり、「政権選択の一票」の重みも実感できる。マニフェストの読み方もシングルイシューではなく、政策情報を集めて総合的に読み解くことになる。(その手法もネット上でいろいろ工夫されていく)

政権が代われば

予算配分が変わるのは当たり前 財源問題の常識、非常識

「た」といえば、国と地方の公務員の人員費を、二割カットして、年間数兆円の財源を浮かせて、これを医療費の公的支出なり、生活保護などの拡充に充てるといふ政策オプションがある。これは、多くの選挙民はこれを支持するのではないだろうか。90年代以来の不況を通じて民間の収入レベルに対する公務員の収入の相対的なレベルが上昇してきたが、これがある程度元に戻しつつ、緊急性の高い社会保障支出を拡充するのだから、最終的な賛否はあるとしても、政策論として筋は通っていると言えるだろう。

この政策を評価するには、政府(自治体を含む)の支出として「公務員の人員費(の一部)」と「社会保障支出(の増額)」のどちらが重要であるかを比較しなければならぬわけだが、社会保障費の増額に対しては「財

「た」といえば、国と地方の公務員の人員費を、二割カットして、年間数兆円の財源を浮かせて、これを医療費の公的支出なり、生活保護などの拡充に充てるといふ政策オプションがある。これは、多くの選挙民はこれを支持するのではないだろうか。90年代以来の不況を通じて民間の収入レベルに対する公務員の収入の相対的なレベルが上昇してきたが、これがある程度元に戻しつつ、緊急性の高い社会保障支出を拡充するのだから、最終的な賛否はあるとしても、政策論として筋は通っていると言えるだろう。

この政策を評価するには、政府(自治体を含む)の支出として「公務員の人員費(の一部)」と「社会保障支出(の増額)」のどちらが重要であるかを比較しなければならぬわけだが、社会保障費の増額に対しては「財

1面から続く
作成する。これが政権選択・政

権交代時代の常識だ。

政治で生活は変わる 若者の参加で政治は変わる まかせせる政治から参加する政治へ

「政治が分らない、自分には関係ない」「誰がやっても同じ」という「思い込み」はどこからくるか。特定の人だけが選挙に参加し、後は官僚にお任せ、「口利き」の必要な人たちが政治に参加する。これが「政権たらい回し」時代の政治であり、選挙だった。これでは「自分に関係ない」というのも当然だ。それが可能だったのは、冷戦という安定した世界を前提にした右肩上がりのおかげで、「あれも、これも」という分配ができたからだ。

しかし世界は不安定になり、右肩上がりには終わり、人口減少が始まる時代には「あれか、これか」を選択しなければならぬ。その選択は選挙によって行われる。そこに参加しないということとは、自分の人生設計や生活設計を誰かに「お任せ」することにはかならない。

政権交代が当たり前前の社会では、政治で生活が変わることは

常識だ。少子化に歯止めをかけたり、ワークシェアリングを実現したりするのは「政治の力」である。それを選挙で選択するのは、国民なのだ。「お任せ」では、生活は変わらない。

マニフェストには予算配分を変えると書いてあっても、それを実現するには、霞ヶ関をはじめとする既得権構造の抵抗・妨害を乗り越えなければならぬ。あれだけ支持率の高かった小泉政権でもできなかったことを実現できるかどうかは、国民の参加次第なのだ。選挙で〇〇党が勝つのではなく、みんなが参加することで政治が変わる、それが政権選択選挙だ。

そして二十代、三十代の参加によって投票率が大きく上げられ、間違いなく政治は変わる。個人史的にも右肩上がり前提でない世代、「何かをするには、何かをあきらめる」という選択が生活のなかで当たり前になった世代の参加は、政治文化、選

挙文化を大きく変える。二十代を何の職業訓練も社会教育も受けずに過ごす、それを個人の事情や責任にしているわけがない」という政策観を選ぶのか、そういう政策観を「大きな政府」と片付けてしまおうような発想を選ぶのか、それを決めるのはあなた自身だ。

まかせせる政治から、参加する政治へ。国民参加の新しい政治文化、選挙文化の扉をひらく、堂々たる政権選択選挙へ！

草加市長選、木下博信氏が三選を果たす

7月26日投開票の埼玉県草加市長選挙では、同人でもある木下博信氏が三選を果たした。投票率は前回より約2ポイントアップで35.5%。当確後、「今回の選挙・勝利は木下の選挙ではなく、子供たちの未来を築いていこうという皆さんの選挙・勝利だ。(私は) たまたま市長をやり、議員をやっているにすぎず、草加を作っていくのは皆さん一人一人だ」と挨拶。



□日程のお知らせ□

◆第93回定例講演会 調整中

◆「日本再生」読者会

8月9日(日)午前10時より

「がんばろう、日本！」国民協議会事務所

◆北九州「日本再生」読者会(会費 500円)

8月11日(火)午後6時30分より

小倉商工会館

◆大阪「日本再生」読者会(会費 500円)

8月4日(火)午後7時より

天満橋ドーンセンター

◆京都・青年学生読者会(会費 200円)

8月27日(木)午後8時より

キャンパスプラザ京都

◆関西政経セミナー「総選挙の総括」

11月1日(日)16時より コープイン京都

■問い合わせ 03-5215-1330

□◆□第六回大会にむけて□◆□

～総選挙後の主権者運動の新しいステージと課題～

◆総会 9月19日(土)10時から18時

「がんばろう、日本！」国民協議会事務所

◆望年会 東京 12月12日(土)16時より(予定)

「がんばろう、日本！」国民協議会事務所

関西 12月7日(月)19時より コープイン京都

◆第六回大会 2010年1月11日(月・祝)

午後 総評会館

終了後に新年会

「がんばろう、日本！」国民協議会 会員になりませんか

同人会員 24000円 購読会員 3500円

賛助会員 50000円(いずれも年間)

郵便振替 00160-9-77459

ゆうちょ銀行(店番号019)当座0077459

「がんばろう、日本！」国民協議会

お問い合わせ 03-5215-1330